

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成25年12月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は5から10に増加。「減少した」業種は4から3に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は11から16に増加。「減少した」業種は6のまま変化なし。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は3から6に増加。「悪化した」業種は6から5に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は9から10に増加。「減少した」業種は2から5に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は7から13に増加。「減少した」業種は9から6に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は7から10に増加。「悪化した」業種は6から7に増加。

製造業

豆腐製造

【県内全域】

国産大豆25年度産の入札が行われた。予想以上の高値取引だった。

酒類製造

【県内全域】

経済好転の影響は、清酒業界まで及ばず売上増に結びついていない。高級品の販売は、増加傾向にある。

印刷

【県内全域】

12月の県内印刷会社受注売上は11月に引き続き、若干増加した模様。正月に向けての季節需要や消費税率アップ前の駆け込み需要を喚起したい企業からの特需、さらには5%から8%に表記を修正する必要のある印刷物等の特需などがプラスに働いている。但し、これらの恩恵を受けているのは限られた一部の企業で、設備の操業度にかかなりの差が出ている。

電気鍍金

【県内全域】

日銀が12月16日に発表した、全国企業短期経済観測によると、「景気観4期連続改善」と発表しているが、中小企業ではその感は薄いのではないかと思われる。

今後、消費税率引き上げの影響などが懸念される。東日本大震災の復興関係の建築資材の発注が幾分多くなっている企業もある。

鉄工

【千葉】

組合員全体では、上昇を伺いつつも横ばい推移の状態が続いている。そのような状況下において、一部ロボット関連業種において、直近に至り需要急回復の動きが見られることは経済指標の好転と共に明るい材料。

機械部品製造

【野田】

操業度が増してきている状況。引き続き、上向き傾向が新年も継続するよう期待したい。

機械部品製造

【流山】

景況は変化なく、なかなか上向きになっていない業種がある。円高状況が続きすぎる。業態によっては、このままでは危険な状態になってしまう。

機械部品製造

【柏】

消費税に伴う、駆け込み需要分の作り込み分増注。但し、4月以降の落ち込み確定。短期間での増注対応に苦慮、4月以降不透明。各社得意先(上場会社)からの省エネ、環境、安全等の

開発に伴う、ニーズ増、この需要の機会と対応がないと今後の取引維持にも影響あり。

■金属製品製造

業況としては、緩やかに改善

してきているが、収益面においては直に結びつかない。

■採石

【県内全域】

12月は出荷が前月より若干上回るものの、港湾事業の入札時期の遅延などにより厳しい状況が続いている。今後、地震対策やオリンピック開催に伴う東京港、川崎港、横浜港スーパー港湾等の改修事業に期待ができるもの、当分厳しい状況に変わりなし。

■土砂採取

【県内全域】

全体的には、前回の11月の状況報告と大きな変化はない。

非製造業

■総合卸売

【千葉県・東京都】

12月に入り、一部の業種（日用品・酒類・家電の一部）で、前年同期比で売上の微増が見られる。

■建築材料卸売

【県内全域】

ムードだけだった需要も、消費税アップ前駆け込みもあり、

荷動きはかなりある。人出不足・資材不足・輸送不足が顕著であるが、利益には結びつかず、好況感を感じられない。

■自動車解体

【県内全域】

前月までと基調は変わらず。12月末にスクラップ価格下げ。夏以降上げた価格の調整とみているので大きく下げることはないだろうとの見方。

■卸売

【茂原】

景気の上昇は、世間で言っている程、地方では感じることがない。年度末まで少しでも上昇ムードがほしいと思っているが、思うようにはいかない。

■小売

【柏】

全体的に消費マインドは向上しているようだ。

■電気機器小売

【県内全域】

全体として、各店の売り上げにはばらつきがあり、組合員は苦戦している模様、駆け込みによる売り上げを期待しているが単発で、この年末も期待薄の状況が続き厳しかった。

■青果小売

【千葉】

11月に引き続き、売上増となった。しかし、11月同様、相場上昇によるもので、実際の商いは

減少となった。そのため、収益面で低下となった。

■中古車仕入・販売

【県内全域】

タマ不足も解消されたようでありと段落か。成約は若干アップ傾向。輸出も依然好調で特にフリカ向けが伸びている。

■小売

【東金】

ファッション関連品は、冬物が動いているが、低価格帯が下がっている。競合店では、下旬より冬物バーゲンが始まっていた。食品関係は、値上がり傾向にある。業界動向は、組合員の資金繰りが厳しくなってきた。

■小売

【野田】

高齢者は値段に拘らず、良い物や贅沢感を味わえる商品を購入するが、若年層はクリスマスセールでも低価格帯の購入が主力なので、売上が伸びない。

■小売・サービス

【柏】

当商店会では11月末に隣接地に複合ショッピングセンターが開店した事も有り。来街者が当初極端に減ったように感じる。個店によって影響に大きく差があるがやはりスーパーの集客力が中旬頃まで低下していた事は

否めずその分活気が無かった。

■建設揚重

【県内全域】

供給不足の状況が続いている、業界の景況は好転傾向にある。

■遊覧船

【鴨川】

一般的に株価も上がり、景気が回復していると言われているが、観光業界は、以前厳しい状態が続いている。天候の不順を除いて少しずつ回復はしている。

■一般廃棄物処理

【千葉】

繁盛期らしい月になった。前年同月比並びに前月を比べると良い結果となった。

■ソフトウェア

【県内全域】

二極化している中で、消費税増税対応・ウィンドウズXP終了関係等の引合いは増えている。

■建設

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注は74億7千8百万円であった。これは、前月比で4億4千7百万円の増加で前年同月比でも20億6千6百万円の増加であった。

■輸出入

【県内全域】

12月は、前月比は減少し、前年同月比は変化なしで不安だつた。海外からの旅行客が少しずつ増加しているのは円安が一因である。